

令和元年度（平成31年度） 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果（カッコ内昨年同時期結果）	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>1 学習指導： 探究型授業を推進する。アクティブラーニングの手法を効果的に導入して、生徒の自主的な学習態度を養成する。</p>	<p>① 生徒が「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組むようにする。</p>	<p>平日の家庭学習時間の平均が3時間以上である生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年生：40.9%（35.0%） 2年生：32.6%（45.5%） 3年生：90.8%（93.1%） 全体：54.8%（57.8%） 【達成度D】</p>	<p>・前年同期と比較すると全体で3ポイントも減少した。1年生が5.9ポイント増加したものの、3年生は2.3ポイント減少、2年生は12.9ポイントも減少した。2年生は中だるみが指摘される学年であるが、この学年は1年次にも前年より大きな減少を示しており、3年次に向け学習習慣の定着を促していく必要がある。 ・今後は時間の確保はもちろんのこと、家庭学習における質の向上も目指す必要がある。</p>
	<p>② 変化の激しい社会の中で、生徒が将来様々な問題や課題に直面しても対応できる論理的思考力や表現力を身につけるように授業改善を推進する。</p>	<p>「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」と答える生徒の平均が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満</p>	<p>12月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」と答えた割合 思考力が高まった：38.7%（33.8%） 表現力が高まった：33.6%（29.3%） 平均：36.2%（31.6%） 【達成度C】</p>	<p>・前年同期と比較すると4.5ポイントの上昇となっている（思考力4.9、表現力4.3）。学年別では、1年生37.0%（前年同期比+5.3）、2年生30.9%（同+3.1）、3年生40.4%（同+5.0）と、どの学年も上昇し、3年生が最も高くなっている。 ・本年前期と比較すると、全体で1.7ポイント上昇した（思考力+1.2、表現力+2.2）。この傾向は前年度と同じである。 ・総合的な学習の時間の課題探究や、AL（アクティブラーニング）型授業など、表現する機会が増えてはいるが、生徒としては表現力が高まったとはまだまだ実感できていないようである。様々な機会を通して表現力を高めていく必要がある。</p>
	<p>③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、失敗をおそれずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。</p>	<p>「授業中に積極的に発言・発表することができると答える生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>12月 生徒アンケート結果 よくあてはまる：13.5%（12.5%） おおむねあてはまる：34.6%（36.1%） 合計：48.1%（48.6%） 【達成度D】</p>	<p>・前年同期とほぼ同じで、わずかに全体で0.5ポイント減少した。学年別では1年生52.6%（前年同期比+8.6）、2年生40.2%（同-4.6）、3年生51.4%（同-5.6）と1年生だけが増加し、最も高くなっている。 ・本年前期と比較すると全体で0.4ポイント上昇した。これは昨年同期の上昇率と同じである。 ・AL型授業や課題探究などで発表する機会は増加しているが、自らの意思で能動的に発言することのできる生徒はまだまだ少ない。まずは、小グループ内で発表する機会を増やし、能動的・積極的に発言を行うことに慣れる必要がある。</p>
	<p>④ 探究型授業の基盤となる豊かな知識を身につけるため、生徒の読書活動を推進する。また、二水版ビブリオバトル（競技スタイルの書評プレゼン大会）を充実させることにより、的確な発信力の育成にも一層努める。</p>	<p>図書の貸し出し冊数が A：3,000冊以上 B：2,800冊以上 C：2,600冊以上 D：2,600冊未満</p>	<p>年間の図書の貸し出し冊数 3,801冊 (2,916冊) 【達成度A】</p>	<p>・図書の貸し出し冊数は、昨年度より30.3%増加した。この増加は、授業における図書館利用の他、1学期1学年の朝読書（集団読書）の取組（貸出冊数には入らず）等により読書の機会が広がった為と思われる。今後とも図書館の整備、様々なコーナーの設置等により、読書活動の推進に努めたい。 ・今年度のビブリオバトルでは、流れを動画で説明し、理解の促進を図ることで円滑な取組を促した。結果、プレゼン後の相互評価のコメント内容が昨年度より充実し質が向上した。振り返りでは、プレゼンの構成を意識しつつ的確に伝えられたかどうか、着目している様子が窺えた。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・1,2年生の時期は部活動をしっかりやりながら、短くともしっかりと学習習慣を付けさせることが大切ではないか。 ・日本の学生は、人前での発表や発言にあたり正解を答えなければという意識が強いように思う。自由な応答を行う場面を増やしてはどうか。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・家庭学習については、学年に応じた目標や指導の工夫もしながら、学習習慣の定着に向けた指導に取り組んでいく。 ・総合的な探究の時間や、各教科の特徴に応じて生徒への問いや発表場面を工夫し、さらに生徒の発信力を高めていく。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 進学指導： 保護者との連携を 深め、高い進路目 標を強い意志を持 って実現する生徒 を育成する。	① 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で、積極的に情報を提供することによって、より高い志望を掲げ、その志望を貫ける生徒を育てる。	3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒の割合が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 【今年度新規】	9月 3年第2回志望校調査 難関大・金大の志望者数 252名 全体の64.6% (250名 全体の63.5%) 【達成度B】	・3年4月の69.6%から9月は64.6%と、概ね志望を保つことができた。 ・高い志望を掲げ、その志望を貫ける生徒を育てるためには、1、2年生からの意識づけが重要であり、課題である。
	② 進路検討会や日常の情報交換を通じて、授業や部活動で関係する生徒の成績を把握し、進路志望について助言に努める。	「授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の生徒の成績を把握し、進路志望についての助言に努めているか」の問いに対して、「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：29.9% (31.4%) おおむねあてはまる：58.2% (51.4%) 合計：88.1% (82.8%) 【達成度B】	・7月と比べ「よく」の割合は0.1ポイントの減少で、ほぼ変化がなかったが、「おおむね」の割合は5.3ポイント増加した。昨年同期との比較でも全体で5.3ポイント増加した。 ・今後も、生徒の志望状況の変化が把握できるよう、進路希望調査や模試ごとに、職員全体に情報提供を行いたい。 ・進路検討会や学年会での情報交換を活発に行い、進路志望について、きめ細やかな助言ができるように、指導体制をつくって行きたい。
	③ 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談をとおして、生徒の進路に関して保護者と緊密な情報交換を行い、信頼関係を築く。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	12月 保護者アンケート結果 よくあてはまる：19.8% (19.2%) おおむねあてはまる：64.1% (62.3%) 合計：83.9% (81.5%) 【達成度B】	・7月時点に比べ、「よく」の割合は4.6ポイント増加し、「おおむね」の割合は0.7ポイント増加した。昨年同期との比較でも全体で2.4ポイント増加した。 ・次年度も、入試制度の変更について、進路説明会、保護者懇談などの機会を含め、随時、的確な情報提供に努めたい。 ・全学年とも面談および懇談を丁寧に行い、信頼関係を深めたい。
	④ 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で目標達成に向けての生徒の取り組みを評価し、意欲を高めるとともに、入試対策を充実させることにより進路実績の向上を図る。	現役合格者数が A：金大が80以上かつ難関大が30以上 B：金大が80以上かつ難関大が30未満 C：金大が80未満かつ難関大が30以上 D：金大が80未満かつ難関大が30未満 【今年度新規】	金沢大現役合格者数 69人 (62人) 難関大現役合格者数 15人 (18人) 【達成度D】	・金大は昨年度に比べ、7増加した。前期での受験者数は、昨年度から12減少、合格者数は10増加し、54であった。 ・難関大は昨年度に比べ、4減少した。前期での受験者数は、昨年度から5減少、合格者数は3減少し、13であった。 ・強い意志をもって進路目標に向かい、それを達成できる学力の育成を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価	個々の生徒に応じた進路指導がなされている様である。先生の一言が生徒のモチベーションにもつながっていくので、今後もしっかり指導を継続してもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試の転換期にあたり、さらに情報収集に努め、教員内で情報共有するとともに保護者や生徒に適切に情報を伝えていく。</li> <li>・学習進度の適正化を図り、生徒のやる気と自信を引き出し、自分の志望を最後まで貫き粘り強くチャレンジする生徒の育成に努める。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 生徒指導・部活動：人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。	① 効率的な部活動による生徒の学習時間の確保や、学習環境の整備に努めるとともに、部員が主体的に活動する指導を工夫し、技能や成績を向上させる。部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。	① 「勉強と部活動の両立ができてい」と答える割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 ② 高校総体の学校順位が A：8位以上 B：10位以上 C：12位以上 D：13位以下	① 12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年：76.4% 2年：72.0% (70.9%) (65.0%) 3年：85.5% 全体：78.0% (84.0%) (73.3%) 【達成度B】 ② 県高校総体の学校順位 男子14位 女子7位 総合9位 (男子29位 女子5位 総合14位) 【達成度B】	①各学年とも上昇している。特に1・2年生が5ポイント以上高くなっている。3年生に関してはここ数年で最も高い数値である。今後も「部活動を3年間、勉強と両立しながらやり切った」という達成感をもてる部活動を追求していく。 ②今年度は若干女子の順位が下がったが、男子が頑張り、総合で10位以内に返り咲いた。しかし、今年度は部活動の加入率は76%で、ここ数年で最も低い値であり、部活動を巡る様々な改革や生徒の気質変化等も鑑み、それらに適応した運営を考えていかねばならない。
	② 生徒が挨拶を自ら積極的に行うよう、教職員が一致した指導を行い、生徒の自覚を高める。	「挨拶はしっかり行っている」と答える生徒が A：60%以上 B：40%以上 C：20%以上 D：20%未満	12月 生徒アンケート結果 よくあてはまると答えた割合 1年：49.2% 2年：38.3% (34.6%) (31.1%) 3年：40.7% 全体：42.7% (35.6%) (33.8%) 【達成度B】	昨年同期より10ポイント近くも高い数値である。特に1年生で、ほぼ半数がしっかりとやっているとの自覚がある。今後も、今年度積極的に挨拶運動を続けている野球部や、生徒会執行部等の生徒たちを中心とし、教職員も範を示し続けながら、積極的に挨拶を行う生徒を育てていく。
	③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。	「十分取り組んでいる」と「取り組んでいる」の割合が A：95%以上 B：90%以上 C：75%以上 D：75%未満	12月 教職員アンケート結果 十分取り組んでいる：63.2% (51.4%) 取り組んでいる：29.4% (47.1%) 合計：92.6% (98.5%) 【達成度B】	昨年同期より5.9ポイント下がっている。日頃の目配り・気配りに加え、いじめアンケート、個人面談、保護者懇談、各種講座・研修、ストレス調査、挨拶運動、二水アクト・ライブ、二水祭等々での「いじめ防止基本方針」に則った細かな指導と、情報の早期把握と共有等に力を注いでいく。
	④ 日頃からの生徒観察をとおして気づいたことを見逃さず、学校全体が連携して、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	「担任・教育相談室・保健室等と連携し、問題(悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めているか」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：50%以上 D：50%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：57.4% (58.6%) おおむねあてはまる：38.2% (35.7%) 合計：95.6% (94.3%) 【達成度A】	「よくあてはまる」の割合は1.2ポイント減少したが、「おおむねあてはまる」が2.5ポイント上昇したため、昨年に比べて1.3ポイント増加した。しかしながら、この項目は、職員全員が努めるべき項目であり、100%を目指して生徒の指導に当たっていかねばならないと考える。
	⑤ 部顧問や保健体育科等と連携し、生徒自身がけがの予防(熱中症予防含)、傷病時の対応等(AED講習、応急処置等)ができるよう指導を行い、自己管理能力を高める。	保健室の外科的利用の件数が、 A：400件未満 B：500件未満 C：600件未満 D：600件以上	年間の外科的利用件数 385件 (474件) 【達成度A】	4月「けがの予防」5月「熱中症予防」9月「応急処置」について、保健委員を対象に保健指導を実施し各クラスで伝達してもらった。また、7月には全部活動の代表者を対象に「救命講習会」を実施し、ケガの予防について意識を高めた。さらに、負傷して保健室に来室した際には、自分でできる応急手当を指導した。体育授業時のケガの減少は、アップ時の体操の徹底が成果を出していると考えられる。結果として、外科的利用者数は昨年度より20%減少させることができた。
学校関係者評価委員会の評価	・挨拶についての生徒の意識が向上しているのは素晴らしいことである。 ・近年、社会的にセクシャルマイノリティの問題なども出てきている。外部専門家等も活用しながら適切な対応が必要となる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・挨拶については生徒の意識と教員の捉えにはやや乖離も見られる。しっかりとした挨拶ができるようにさらに指導を続ける。 ・スクールカウンセラーとの連携や校内研修によって、すべての教員が多様な生徒に対して適切に対応できるよう努める。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 教職員が常に改革意識を持って業務の効率化をはかり、よりよい教育活動を追求する。	会議運営や文書作成のさらなる効率化を行い、また、ICTスキルアップや業務の優先順位付け等を通して、教職員の業務効率化の意識を醸成する。	「生徒と向き合う時間の確保に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」と答える教員の割合が、 A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 48.5% (41.4%) おおむねあてはまる : 42.6% (51.4%) 合計 : 91.1% (92.8%) 【達成度C】	「よくあてはまる」と回答した教員が昨年同期と比べ7.1ポイント増加した。今年7月と比べても、8.8ポイントと増加が見られる一方、「おおむねあてはまる」と併せた肯定的回答はわずかに1.1ポイントの増加であり、昨年同時期よりも1.7ポイント減少している。次年度はさらに業務の精選や効率化の意識を高めると共に、業務分担の平準化についても配慮したい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動の外部委託など、教員が長時間労働で身体を壊さないよう工夫して欲しい			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の部活動の負担については、適切な休養日の設定や効率的な練習など、様々な工夫を考える。</li> <li>・業務の効率化や教材の共有など、多忙か改善に取り組んでいく。</li> </ul>			